

# 委員会の動き

## 総務委員会

公的年金等からの市民税の特別徴収者は何人くらいかと尋ねたところ、平成二十年度で六十五歳以上の主たる所得が年金で、市民税がかかるのは、五百八人が対象者であるとの答弁であった。

各課に人件費の計上があるが、職員の人事評価による結果も反映されているのかと尋ねたところ、人事評価の結果については、反映されていないとの答弁であった。

管理職手当に変動がある理由を尋ねたところ、昨年度、定率制から定額制に変更した。定額制での金額の基準は、人事院の規定により、在職管理職員の手当の平均額とするため、金額が下がる方、上がる方、それぞれ出てくるとの答弁があった。

行政評価の結果を市民に公開し、意見公募を行うことについて、どこまでの意見を求めるのかと尋ねたところ、伊予市民あるいは、伊予市と直接関係がある者から、ある程

度責任ある意見を受け入れ、セキユリテイ管理を含めて、市に登録し、登録時に住所・氏名・性別を示していただき、その後の投稿については、無記名で構わないとの答弁があった。

## 民生文教委員会

伊予市手数料条例の一部を改正する条例の、今回の戸籍法の改正内容を尋ねたところ、従来は誰でも戸籍謄本等を請求できたが、改正により、本人、配偶者、直系親族以外の第三者が請求できる場合が制限され、窓口で請求に来た人の本人確認が必要になったとの答弁があった。

第三者請求の場合は、差別問題に利用されないよう、留意されたいとの意見があった。

国民健康保険特別会計補正予算の専決について、繰上充用する原因を尋ねたところ、受診件数が前年度比7・64%増である、零歳から六十四歳までの被保険者は前年度比二百六十三人で3・23%減少したが、六十五歳以上の被保険者数が前年度比二百一人の2・51%増で、前年度より保険給付費が増加した。また、疾病

では、平成十九年五月診療分で調査した結果、愛媛県平均比で、当市の医療費の占める割合は、特にウイルス性肝炎が三・六四倍、脳梗塞が一・五八倍等と高く、これらの医療費が多かったのではないかと答弁があった。

一般会計補正予算の歳出のうち、新規事業である学力の把握に関する研究指定事業の内容と全国学力・学習状況調査との関連を尋ねたところ、国・県の事業ではなく国立研究政策所からの全額補助事業で、二十年度から三年間、港南中学校の英語科を指定し、学習指導要領に定める目標を把握研究するもので、全国学力・学習状況調査とは関係ないとの答弁があった。

## 産業建設委員会

開発業者と管理協定を結び、施工した開発道路について、今後も積極的に市道認定していく方針であるのか尋ねたところ、平成十七年六月市道認定基準要綱を制定し、開発業者と事前協議を行い、四・六以上の幅員と行き止まりの場合は回転広場があること、寄附をしてもらうことを条件

に市道認定を進めているとの答弁があった。

上灘漁業協同組合水産加工施設の建て替えについて尋ねたところ、事業計画では、今年度を実施設計とソフト事業を実施し、平成二十一年度に建物を整備し、平成二十二年に加工機械の導入と付帯施設等を整備し、三年間の総事業費は、七億四千三百万円余りで計画している。

執行にあたっては、今後、市側の負担が増えることがないよう、市の基本姿勢を崩さず、双方合意の上で事業に取り組むべきであると要望した。

伊予市木造住宅耐震診断事業補助金について、今後の見通しと対象戸数について尋ねたところ、この事業は国及び県の促進計画の指針に基づき、啓蒙・啓発活動を推進し、耐震化率を高める事業であり、平成二十七年までは、この事業を推進していく。

補助対象の基準を満たしている昭和五十六年以前の木造住宅戸数は、概ね三千四百戸あるとの答弁があった。

## 編集後記

真っ青な空、真っ白な入道雲夏本番、市民の皆様には、暑中お見舞い申し上げます。合併をして、地域が広がり、今までは地元で開催されるイベントのみの参加でありましたが、それぞれの地域には、特産品や風物・名所など、特長を活かした数々のイベントを催しており、特に春から秋にかけては、各地でイベントが盛んに開催され、各地へ出かける機会が増え、体一つでは、足りないのでは？（多少大げさ！）

皆さんもこれらイベントに大いに参加していただき、新伊予市の良さを再発見するとともに、外に向かって新伊予市のPRをしていただければと願う次第です。

暑い日が続きますが、ご自愛され健康でお過ごしください。

文責 谷本勝俊

### 議会広報調査特別委員会

- 委員長 岡田博助
- 委員 佐川秋夫
- 委員 谷本勝俊
- 委員 正岡千博
- 委員 武智邦典
- 委員 久保
- 委員 水田恒二